

1,イラン

カージャール朝(1796~1925)---トルコ系部族連合のイスラム王朝。首都()1

2度のイラン・ロシア戦争→第一次(1805~12) 第二次(1827~1828)

1813年 ゴレスターン条約→()2=黒海東岸=をロシアに割譲。

1828年 ()3条約→アルメニア、()4北部を割譲 治外法権を認める。

・中央アジアにおけるイギリス・ロシアの対立

イギリス→最恵国待遇を含む通商条約をイランに認めさせる。

・ロシア、イギリスの経済的進出による窮乏化、税負担の増大

⇒農民・手工業者・商人→各地で()5不払いの闘い

1848年 ()6教徒❖aの反乱(1848~50)

❖a---イスラム教シーア派の一派。()7=イスラム法の廃止など、自由主義的改革を訴える。コーランに代えて新たな預言「バヤーン」を啓典とする。創始者バーブ❖b。弟子バハーウッラー❖cによって()8教❖dとして世界に広まる。また、女性信徒ファーテメ=バラガーニー(18??~52)は[]9を

取り去って公の場で活動するなど、女性の権利拡充運動の先駆とされる。

❖b---本名セイイド・アリー=モハンマド(1819~50)。自らをマフディーの再来と宣言。12イマーム派により異端とされイランで迫害を受け、1848年逮捕、1850年処刑された。

❖c---本名ミールザー・ホセイン=アリー(1817~92)。テヘラン生まれ。バグダードに追放され、さらにパレスティナに流された。

❖d---モーゼ、イエス、ムハンマドに釈迦、ゾロアスターも神の啓示者とする。人類の平和・統一、[]10平等、一夫一婦制、教育の普及、偏見の除去、他宗教への寛容を説く。本部はハイファ(イスラエル)のカルメル山。

1860年代 王室財政を補うために、鉄道・電信敷設権などの利権を外国に売却

→イギリス・ロシアに対する経済的従属を深める。

1891年 ()11独占販売利権のイギリス商人への売却⇒タバコ・ボイコット運動❖e

→イラン人のナショナリズム高揚

❖e---ウラマーのタバコ使用禁止のファトワーにより一斉にボイコット運動に発展した。

1906年 ()12立憲革命---国民議会開設・憲法制定❖f

1911年 ロシア・イギリスの介入→国王は議会を解散、憲法も機能停止

❖f---1830年ベルギー憲法を範とし、フランス人権宣言の精神を盛り込んだ。

2,アフガニスタン

18世紀 アフガニスタン王国(1747~1973)成立。イラン系()13人

ドゥッラーニー朝(1747~1842)--。首都()14。ムガル帝国に侵攻。

バーラクザーイー朝(1842~1973)--王家が分裂して建国。首都()15。

3度のイギリスの侵略を退ける。その勢力は一時パンジャーブ地方にも及ぶ。

第1次アフガン戦争(1838~42) イギリス→アフガニスタンへの進出を試みたが敗北。英軍は全滅。

1855年 ()16条約⇒領土の相互保全を約す。

第2次アフガン戦争(1878~80) イギリス→ロシアの進出に対抗し出兵、再度アフガニスタンを侵略

1881年 ()17=ハーンが即位し、外交権を英に委ねて保護国となる。

→アフガニスタン、インド(パキスタン)の国境確定→パシュトゥン人を分断

1919年 第3次アフガン戦争によりアフガニスタンの独立を承認。ラワルピンディー条約。

3,ロシアの南下

①カフカス・西トルキスタン・アフガニスタン⇒イランとの交易網

19世紀 2度のイラン・ロシア戦争→グルジア、アルメニア、アゼルバイジャン北部を割譲させる。

②()18の3ハン国→イラン・ロシア・清との交易で繁栄

1867年 ()19を省都とするトルキスタン省設立。

1868年 ()20を占領し、ブハラ=ハン国を保護国とする。

1871年 東トルキスタンのイスラム教徒の反乱に乗り()21地方を占領→イリ事件

1873年 ヒヴァ=ハン国を保護国とする。1876年 コーカンド=ハン国を併合。
⇒ロシア領()22を形成

1881年 イリ条約→ロシアと[]23との間の国境線を定める。

→ロシア、中央アジアのムスリム知識人による教育改革・政治運動=()24運動❖g

❖g---1880年代クリミア半島で始まる。ウスーリ・ジャディード=「近代的教育方式」=黒板、教科書など。

4,イスラム改革運動

①イブン=アブドゥル=()25❖h(?~1791) アラビア半島でイスラム改革運動開始
イスラム神秘主義=()26を徹底的に批判。

❖h---『コーラン』と預言者のスンナ=慣行、範例への復帰、シャリーアの厳格な施行を唱える。

18世紀 ワッハーブ王国❖i(1744ごろ~1818)建国 アラビア半島

❖i---ワッハーブ派がアラビアの豪族()家27❖jとむすんで建国。1818年滅ぶ。

❖j---アラビア中部出身。ワッハーブ主義の保護者となる代わりに世俗支配者として勢力拡大。

1823年 王国を再興=第2次ワッハーブ王国(1823~89)

これも19世紀末に滅んだが、20世紀はじめに[]28王国として復活。同国の国教。

②ジャマルッディーン=()29(1838/39~97) イラン(またはアフガニスタン)出身

「徹底した反帝国主義の立場 パン=()30主義による団結を説く

↳オスマンやカージャール朝の専制を批判、イスラム世界各地の民族運動に思想的影響

→エジプトのムハンマド=()31(1849~1905)による改革運動❖k

❖k---西洋技術導入はイスラムと矛盾しない、として教育・宗教の近代化、シャリーアの柔軟な解釈を説く。



カージャール朝



バーブ教寺院(ハイファ)



アフガニスタン



イリ地方



バハーウッラー



アフガーニー



アブドゥフ

- ・税金 ・イリ ・イラン ・バーブ ・タバコ ・カーブル ・イスラム ・グルジア
- ・ウズベク ・テヘラン ・サウード ・タシケント ・バハーイー ・シャリーア ・アブドゥフ
- ・スーフイズム ・ワッハーブ ・ジャディード ・カンダハール ・ペシャワール ・サマルカンド
- ・パシュトゥン ・トルキスタン ・アゼルバイジャン ・アブドゥッラフマン ・トルコマンチャーイ